

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
東北電子専門学校		昭和51年3月31日		吉田 博志		〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人日本コンピュータ学園		昭和61年10月22日		持丸 寛一郎		〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501																			
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	AIテクノロジーエンジニア科			平成29年文部科学省 告示第30号	-																			
学科の目的	AI(人工知能)システム開発では必須の技術である機械学習から、IoTの核となるリアルタイムOSやCAN通信、モデルベース開発などの知識や技術を持った、AI家電、車の自動走行開発に携わる技術者を育成する。																								
認定年月日	平成27年2月25日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	単位時間																	
	3年 昼間									3192時間	2223時間	285時間	883.5時間	0時間	0時間										
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
60人		40人	0人	6人	5人	11人																			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:5段階での評価が2以上(評価点が60点以上)を合格とする 評価の方法:定期試験・レポート及び授業に取り組む姿勢をもとに評価する																				
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏季:7月24日～8月23日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■学年末:3月22日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: ・学期に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間800時間以上履修していること。 ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,400時間以上履修していること。 進級要件: ・学期に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間800時間以上履修していること。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 成績不振、長期欠席等の生徒に対し、担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問や保護者を交えた面談			課外活動	■課外活動の種類 卒業制作展、仙台まち美化サポーター ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 株式会社SRA東北、日立Astemo仙台株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング ■就職指導内容 担任と就職センター専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート書き方講座」「面接対策講座」等のセミナーや講座を実施 ■卒業生数 : 12 人 ■就職希望者数 : 12 人 ■就職者数 : 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数:0人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AI検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ETEC クラス2 グレードB</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AI検定	③	12人	7人	ETEC クラス2 グレードB	③	12人	2人	基本情報技術者試験	②	4人	3人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
AI検定	③	12人	7人																						
ETEC クラス2 グレードB	③	12人	2人																						
基本情報技術者試験	②	4人	3人																						
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 2.5 % 令和3年4月1日時点において、在学者40名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者39名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 転学 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルズ講座																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.jc-21.ac.jp/course/ib/es/">https://www.jc-21.ac.jp/course/ib/es/</a>																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 本科の教育課程の編成においては、組込みシステム開発について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会(組込み・AI分野)」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。  
 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、次の過程を経て教育課程を編成、決定する。

1. 本科教員により、次年度教育課程について検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会(組込み・AI分野)」(年に2回以上開催)において、現行教育課程及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、次年度教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、次年度教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
笠松 博	宮城県産業技術総合センター	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
手塚 進	創造技研株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
吉澤 毅	東北電子専門学校 教務課長(副委員長)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
阿保 隆徳	東北電子専門学校 学科主任(委員長)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
坂藤 健	東北電子専門学校 教員	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数:年2回開催 開催時期:毎年9月及び2月

(開催日時)

- 第1回 令和3年10月22日 16:00～17:30 ※9月開催予定であったがコロナ禍の為10月に延期開催した  
 第2回 令和4年3月18日 16:00～17:00 ※2月開催予定であったがコロナ禍の為3月に延期開催した

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

クラウドAIのAzureではac.jpドメインを持っていると学生用に多少クレジットを提供しているので活用してみてもどうか、Azure等を動かすだけならばM5Stack等を使用して比較的容易の作成できるので組込みAIの派生の一つとして検討してみてもどうか。との意見を受けたため、以下の内容を教育課程に反映する。

1. 教員はac.jpドメインを持っているので、Azureを使用したAI構築について調査分析を行い、「AI応用開発」の授業科目で組込みAIシステム構築への活用事例として講義を行う。
2. Microsoftの無料オンライントレーニングであるMicrosoft Azure Virtual Training DayにあるAI基礎講座を受講して「AI応用開発」の授業科目内でAzure活用法の概要について講義を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な能力を育成するために、企業等と組織的な連携を取った実習が重要と考えている。連携するにあたっては、知識・技術の学修に加えて、実務を遂行するに必要なヒューマンスキルや仕事に対する意識・姿勢への「気づき」を得ることも重視する。  
また、企業の選定にあたっては、実践的なアドバイスを受けて必要なスキルが修得できるように、現役のシステムエンジニアを派遣でき、その指定施設で実習・演習の指導ができることを要件とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

有限会社カイクウ社と取り交わした「職業教育協定書」(以下、協定書)に基づいて講座を定期的(1回/月程度)に「IoT技術」の中で企業と連携し実施する。  
組込みシステムエンジニアとして必要な要素技術・開発技術・管理技術を修得することを目的として、企業の第一線で活躍しているエンジニアの講師の指導の下、実践的な実習・演習を行う。  
組込みに関する授業科目の担当教員と企業・業界団体等の講師が実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、生徒の学修成果の達成度評価指標等について定める。実習開始前に、講座を行う講師が実習以前の授業で指導した知識・技術の説明を行う。次に、実習期間の始めに、企業等の講師が生徒に事前評価課題のレポート作成を行う。その後、企業等の講師が専門性の高い技術的な指導等を一定期間行う。さらに、実習最終日には事後評価課題のプログラミングを行い、生徒の学修成果の到達度を把握する。  
実習終了時には、企業等の講師による生徒の学修成果の評価を行う。その後の授業においては、学習するテーマが実務でなぜ必要となるかを、実習時の振り返りを行いながら説明していく。期末には、企業等の講師の評価を踏まえ、担当教員が総合的に成績評価・単位認定を行う。  
また、創造技研株式会社と取り交わした「職業教育協定書」(以下、協定書)に基づいて「IoTネットワーク概論」「プログラミング技術Ⅱ」の授業科目を週に3コマ程度、本校の講師として派遣を受け、机上で学ぶべき基礎知識に加え、実際の実務現場の視点から、IoTシステムとして特に重要となるプロトコルなどの項目では、実際のハードウェアマニュアルなどを用いて、より詳細な解説と、目的に整合するIoTネットワークデバイスの選定方法などの指導を行う。また、開発過程において誤りやすい事項の対応策や事例を交えた講義と、その講義内容の理解を深める為の演習や実習を行い、通常の試験と併せて評価を受ける。

科目名	科目概要	連携企業等
IoT技術 (AIテクノロジーエンジニア科 2年生)	通常の授業でのETEC試験の出題範囲のマイクロコンピュータに関する学習をしており、その習熟度を深める為に年に6回、連携企業により特別講座を実施する。効率的で拡張性の高いプログラムの作成法(構造化プログラミング)についての講義と演習をする。システム開発の限られた時間内に成果を出すためコーディングやテスト等の知識・技術について学修しながら、業務の基本的な姿勢である意思表示、報告義務を認識させる。企業の第一線で活躍しているエンジニアの講師の指導の下、実務に則した演習を行う。	有限会社カイクウ社
IoTネットワーク概論/ プログラミング技術Ⅱ (AIテクノロジーエンジニア科 2年生/3年生)	IoTで用いられるネットワーク規格の基礎とプロトコルを学習する。また、今後普及が見込まれる5Gの概要についても学習する。今後重要な事項となるセキュリティに関しても実務的な観点から学修を行う。	創造技研株式会社

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、教員に対する研修の必要性を把握し、その必要性に応じて研修計画を策定し、計画に基づいて研修を実施する。その内容として、専攻分野の実務に関する知識や技術及び授業や生徒に対する指導力等を修得させ、教員の能力及び資質等の向上を図る。必要な場合は、他の機関や企業等と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことがある。

これらについては、「学校法人日本コンピュータ学園 教員研修規定」に定めており、この規定に基づいて研修を実施している。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

「AI・自律ロボティクス開発入門」に関する研修

内容： MATLABおよびSimulink による自律ロボティクス開発に関する認識・ディープラーニング・経路計画・強化学習のワークフローについて、移動ロボットのナビゲーションやマニピュレータのシミュレーションにおける動作を見ながら学ぶ研修。

連携： AIを組み込み分野に活用する事例と考え方について教育課程編成委員に相談したところ、MathWorks Japanで企画した同Web研修の紹介を受け受講した。

対象： 学科教員

日時： 令和3年6月6日(日) 10:00～11:50

講師： MathWorks Japan 木川田 亘 氏  
草野 駿一 氏  
小林 昇洋 氏

「AIを用いた画像処理」に関する研修

内容： AI画像処理作成に関する画像処理開発ソフトについての解説とAI学習方法に関する解説、使用事例の紹介について学ぶ研修。

連携： 専門学校でAIシステムの活用事例に関する説明を具体的に学びたい旨を教育課程編成委員に相談したところ、宮城県産業技術総合センターで企画した同Web研修の紹介を受け受講した。

対象： 学科教員

日時： 令和3年12月17日(金) 14:00～15:40

講師： 株式会社マイクロ・テクニカ 塚越 有揮 氏

「IoT関連セミナー センシングとAI」に関する研修

内容： IoTの2大要素である「センシング」と「AI」について、センサのインタフェースに必須のA/D変換とシリアル通信(UART, I2C)の使い方とAIを組み込み機器に導入する方法について学ぶ研修。

連携： AIを組み込み分野に導入する具体的な方法について教育課程編成委員に相談したところ、宮城県産業技術総合センターで企画した同Web研修の紹介を受け受講した。

対象： 学科教員

日時： 令和4年2月1日(水)14:00～17:00

講師： ルネサス エレクトロニクス株式会社 藤澤 幸穂 氏

## ②指導力の修得・向上のための研修等

「発達障害について」～事例を通しての理解と対応～

内容： 発達障害に関する法律、発達障害の事例、医療や福祉サービスとの繋がり方、家庭との関わり方を理解し、それぞれのケースに応じた対応を学ぶ研修

連携： 宮城県専修学校各種学校連合会の企画・主催の中堅教員に対する研修

対象： 代表教員4名が受講し、受講後は新任教員に対して報告研修を行った。

日時： 令和3年12月9日(木) 13:30～16:30

講師： 宮城県発達障害者支援センター 佐藤 寛崇 氏

「アクティブラーニングについて」

内容： 専門学校でも求められる学生の主体的な学びを促す取り組みについての研修

連携： 宮城県専修学校各種学校連合会の企画・主催の研修

対象： 代表教員4名が受講し、受講後は全教員を3グループに分け報告研修を行い研修内容の周知を図った

日時： 令和4年3月3日(木) 14:15～16:00

講師： プランニング開 松村 弘美 氏

## (3) 研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

「AIとロボットを活用した生産ラインの最適化」に関する研修

内容： IoTプラットフォームLumadaとMATLABの連携による車両管制やMathWorksからROS/ROS2連携、AI、ディープラーニングなどの自律アルゴリズム開発、JetsonなどへのエッジAI実装まで含めた最新ロボティクスソリューションを学ぶ研修。

連携： AIとIoTを組み込み分野に活用する事例と考え方について教育課程編成委員に相談したところ、MathWorks Japanで企画した同Web研修の紹介を受けた。

対象： 学科教員

日時： 令和4年6月9日(木) 14:00～15:35

講師： MathWorks Japan 木川田 亘 氏

日立製作所 西山 博泰 氏

### ②指導力の修得・向上のための研修等

「遠隔授業」に関する研修

内容： 新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として昨年度行った遠隔授業は、各教員が試行錯誤を繰り返しながら実施してきた。この研修では、遠隔授業の効果的な授業方法や注意点について学ぶとともに、これまで各教員が身に付けてきた遠隔授業に関するノウハウを共有する。

連携： 連携企業から、「コロナ禍におけるリモートワークはある程度の効果がでている。コロナの感染拡大をきっかけに、今後の働き方は大きく変わっていくと思われる。学生のうちからオンラインによる会議やディスカッションに慣れておくことで、入社後の業務を円滑に進められるようになる。学校には効果的な遠隔授業の実施について研究していただきたい。」との助言にもとづき、東北電子専門学校が企画し全教員を対象として実施する研修。

対象： 全教員

日時： 令和4年8月(予定)

講師： 連携企業の講師を予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び職業実践専門課程として推薦する学科(以下、「当該学科」という。)の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(以下、「委員会」という。)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。

委員会は、学校の重点目標、計画、自己評価等について評価し、特に当該学科については、その教育目標、育成人材像、教育課程の編成、キャリア教育、資格取得の指導体制等について重点的に評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめ、広く公表する。

学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の継続的な改善を行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目的	a. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) b. 学校における職業教育の特色を示しているか c. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか d. 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか e. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか b. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか c. 運営組織や意志決定機能は、明確化され、有効に機能しているか d. 人事、給与に関する制度は整備されているか e. 各部門の組織整備など意志決定システムは整備されているか f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか g. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか e. 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか f. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか g. 企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか h. 授業評価の実施・評価体制はあるか i. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか j. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか k. 必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか l. 関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか m. 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 就職率の向上が図られているか</li> <li>b. 資格取得率の向上が図られているか</li> <li>c. 退学率の低減が図られているか</li> <li>d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>b. 学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>f. 学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>g. 保護者と適切に連携しているか</li> <li>h. 卒業生への支援体制はあるか</li> <li>i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>j. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>b. 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>c. 学生が自主的に学修するための環境が整備されているか</li> <li>d. 防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>c. 学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>c. 財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>d. 財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>d. 自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>b. 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>c. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか</li> <li>b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>c. 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> <li>d. 学内で適切な体制が整備されているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

本校では今後DXを本格的に展開していく旨を伝え、業務効率化を目的とした情報システムの更新計画(志願者受け入れシステムやRPAの導入)に関する説明を行い、多くの委員から高い評価を頂いた。次年度にはWeb出願システムを導入し、出願者や保護者の利便性向上と業務の効率化を図る予定である。また、今後も更なる業務改善に向け、DXを実現していく上での情報システムに関する現状の課題やその対応策を中心に議論を行い、計画的に情報システムの更新を行っていく。

また、ICT活用を推進するため、教育・学習環境をサポートするネットワーク基盤整備の重要性を指摘いただき、学内・学生寮のネットワークを高速化し、無線LAN環境などを充実させ、遠隔授業等多様な授業形態を提供できるようになり、教職員や学生の利便性が向上した。



(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
菊田 正信	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
川端 拓郎	株式会社 ARCA	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
本宮 真仁	株式会社 メンバーズ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
角田 透	株式会社 JC-21教育センター	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
神田 堅太郎	リコージャパン 株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
川島 健太郎	株式会社 ヒノタマ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界団体
庄司 直人	株式会社 リード・サイン	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
岸浪 行雄	株式会社 東北共立	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
水本 豊	株式会社 ミヤギテレビサービス	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
千葉 清純	一般社団法人 宮城県建築士事務所協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界団体
笠松 博	宮城県産業技術総合センター	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 浩之	株式会社 アルゴグラフィックス	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 富士夫	宮城県電気工事工業組合	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法: ホームページで公開 URL: <https://www.jc-21.ac.jp/report/hyoka/>

公表時期: 毎年7月中旬に更新

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、学校教育法、私立学校法で定められた目的を実現するための教育機関として、教育活動の活性化や学校運営の円滑化を図るとともに、企業等との繋がりを強め、連携推進に資するために情報公開を行う。  
 提供する情報は、学生及び保護者、入学希望者、企業関係者等に対して、学校の教育目標・教育活動の実績・キャリア教育等の教育基礎情報を始め、学校評価等の学校全体の状況に関することとする。  
 なお、提供に当たっては、個人情報の取扱いに留意するとともに公正な情報の表示に努めるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	設置者名、学校名、所在地、連絡先、理事長名、校長名、教職員数、学生数、教育理念、事業計画、学校の特色、沿革
(2) 各学科等の教育	修業年限、募集定員、学科案内(学科の特色、取得を目指す資格、職種、学びのステップ)、カリキュラム、入学者数、資格取得実績、卒業者の進路
(3) 教職員	教職員数、教員組織・担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職支援プログラム、各種連携・連携教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動、教育施設・設備(校舎概要、主な施設・設備の特色、主な実習設備、その他施設・設備)
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	初年度学費一覧、入学手続き金の分割納入について、授業料等の分割納入について、学費サポート制度(特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、新聞奨学生制度、教育ローン)
(8) 学校の財務	財務情報(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)
(9) 学校評価	学校評価、自己評価、学校関係者評価、職業実践専門課程の基本情報
(10) 国際連携の状況	留学生対象学科: 国際ビジネス科の特徴、取得を目指す資格
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、卒業制作展等学校・学科が主催するイベントで情報提供

<https://www.ic-21.ac.jp/report/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 A I テクノロジーエンジニア科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策 I	習熟度に応じたクラスを編成し、一般常識や適性試験対策を中心に学習する。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学ぶ。	1通	57		○			○			○	
○			ハードウェア概論	I Tパスポート試験・基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうちハードウェアに関すること・エンドユーザコンピューティングに関すること・コンピュータサイエンスに関することを基本から学習する。	1通	171		○			○			○	
○			ネットワーク技術基礎	I Tパスポート試験・基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうちネットワークに関すること・情報セキュリティに関することを基本から学習する。	1通	85.5		○			○			○	
○			データベース技術基礎	I Tパスポート試験・基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうちデータベースに関すること・データ構造に関することを基本から学習する。	1通	85.5		○			○			○	
○			アルゴリズム	I Tパスポート試験・基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうちアルゴリズムに関すること・データ構造に関することを基本から学習する。 プログラマ・システムエンジニアとして必須の技術である論理的思考力・ロジック構築能力を身につける。	1通	114		○			○			○	
○			プログラミング言語	基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうちプログラミング言語に関することを基本から学習する。 プログラマ・システムエンジニアとして必須の技術である論理的思考力・ロジック構築能力を身につける。	1通	142.5		○		△	○			○	
○			システム開発概論	I Tパスポート試験・基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうちソフトウェアに関すること・エンドユーザコンピューティングに関すること・ソフトウェア工学に関すること・プログラム設計開発に関することを基本から学習する。	1通	142.5		○			○			○	
○			情報化の基礎	I Tパスポート試験・基本情報技術者試験・応用情報技術者試験の出題範囲のうち情報処理関連知識に関することを基本から学習する。	1前	114		○			○			○	

○		情報リテラシー	情報倫理やネチケットなどのリテラシー教育を行う。 AIリテラシーやRPAの基礎知識とその仕組みについて学習する。 Officeの基本的な操作実習を行う。 ITパスポート試験・基本情報技術者試験・情報検定試験の出題範囲のうち表計算ソフトに関することを基本から学習する。	1前	57		△	○	○	○				
○		AI概論	AIとはどのようなものなのか、どのように構成され利用されているのかなどの基礎知識などを習得する。	1後	57		○	△	○	○				
○		構造工学概論	自動車を構成する部品の構造や原理・機能に関する基礎知識と技術革新の動向を学び、自動車の基本機能がどのように実現されているかを学ぶ。	1後	114		○	△	○	△	○			
○		就職対策Ⅱ	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就活トレーニングを行う。	2通	57		○		○				○	
○		英語Ⅰ	エンジニアとして必要な英文法の基礎を学習し、英文マニュアルや簡単な英語の文献が読める程度の読解力を養う。	2通	57		○		○				○	
○		プログラミング技術Ⅰ	IOTやAIに欠かせないC言語とPythonを、基礎から演習を通して学ぶ。	2通	114		○	△	○			○		
○		AI応用システム	AIシステムを応用した実習機器を使用して、その内容を具体的に学ぶ。	2通	171		△		○	○		○		
○		デジタル回路	最新のデジタル回路設計を基本論理から応用手法であるHDLまでを、実習を交えて応用的に学習していく。	2通	114		○	△	○			○		
○		IOT技術	IOTシステムに必要なマイコンによる機器制御を各要素技術を基に应用する技術を学習する。	2通	171		△	○		○		△	○	○
○		エレクトロニクス	IOTシステムに欠かせない電気に関する一般的な知識の修得を実験を行いながら学ぶ。	2前	57		○	△	○			○		
○		IOTネットワーク概論	信頼性が高く多くの機器に必要なIOTネットワークを実現するプロトコルや実装技術を学ぶ。	2前	85.5		△	○		○			○	○
○		ROS	IOTシステムのOSとして必要なリアルタイムOSを、実習を通して学習します。	2後	85.5		○	△	○			○		
○		情報処理技術者試験対策ⅡA	受験区分ごとに対策クラスを編成し、情報処理技術者試験の出題範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2前	57		○	△		○			○	
○		情報処理技術者試験対策ⅡB	受験区分ごとに対策クラスを編成し、情報処理技術者試験の出題範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○	△		○			○	

○		就職対策Ⅲ	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就職活動のトレーニングを行う。	3前	57	○			○													
○		英語Ⅱ	基礎的な英語の知識に、専門的な用語も踏まえ簡単な小論文を記述出来る知識を学習する。	3通	57	○			○												○	
○		プログラミング技術Ⅱ	オブジェクト指向言語のJavaやpythonをベースに高度なアプリケーションプログラミングを学ぶ。	3通	228	△			○	○					△	○	○					
○		AI応用開発	AIシステムの応用に関する開発技術を、IoTマイコンとFPGAの連携システムを例に応用まで幅広く学習し、その後テーマを決めて卒業研究へとつないで学習する。	3通	114	△			○	○					○							
○		AI画像処理	デジタル化された画像データのモデル化やデータ解析によるパターン認識などの方法を学ぶ。	3前	57	○			○						○							
○		モデルベース開発	AI・IoTシステム開発において、近年特に注目されているモデルベース開発の概念と開発手法をMATLAB/simulinkを用いて学習します。	3通	114	○	△		○						○							
○		3D-CAD	IoTシステム開発プロセスにおいて、設計・性能評価で活用されている3D-CADの基本的な操作を学習する。	3前	57	○			△	○					○							
○		卒業研究	これまでの学習を基礎に先進的な課題をテーマに研究し、最後にその成果を発表する。	3通	228	△			○	○					○							
○		情報処理技術者試験対策ⅢA	受験区分ごとに対策クラスを編成し、情報処理技術者試験の出題範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57	○	△		○						○							
○		情報処理技術者試験対策ⅢB	受験区分ごとに対策クラスを編成し、情報処理技術者試験の出題範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57	○	△		○						○							

	○	ボランティア活動	校内外におけるボランティア活動を行います。	1後 2後 3後	28.5	△	○	○	○					
	○	CGアプリケーション入門	3次元CGの初歩的な制作方法を学びます。	1後 2後 3後	28.5	△	○	○	○					
	○	英会話基礎	日常英会話の基礎を学びます。	1後 2後 3後	28.5	○		○					○	
	○	コミュニケーションスキル講座	円滑な対人関係、組織の活性化、および、良いコミュニケーションに必要な「話す」「聞く」といった知識と能力を身に着ける。	1後 2後 3後	28.5	△	○	○					○	
	○	就職作文対策	就職試験で出題されることが多い作文について、基礎的な書き方やコツなどを学びます。	1後 2後 3後	28.5		○		○				○	
	○	経営とビジネス	技術者にも必要な会社における会計の基本と経営との関係について学びます。	1後 2後 3後	28.5		○		○				○	
	○	実践カラーコーディネート	配色調和、色彩心理などカラーコーディネートの知識を基に、対象別の実践的配色技法を習得します。	1後 2後 3後	28.5		○	△					○	
合計				31科目	3192単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間800時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。